企画・制作 福島民報社広告局

阿賀川・阿賀野川と日本海がつないだ福島と新潟の縁、これからもずっと大切にしたい。

福島県と新潟県。2つの県の関わりが深いのは、その昔、阿賀川（阿賀野川）を舟が行き交い、人や物をたくさん運んで交流してきたからです。阿賀川で新潟港に運ばれたものは、日本海から大阪や北海道など、もっと遠くへ運ばれました。この阿賀川でつながる両県から公募で集まった小学生やその保護者が海や川を好きになって大切にする心を育む「川もり海もりプロジェクト」に参加。阿賀川で運ばれた代表的なモノの「塩」と「鉄」の2コースに分かれ、さまざまな体験を通じて、川と海と港の大切さ、両県の関係を考えました。

【塩】コース　2018 8/18・19

味付けや保存食作りに欠かせない塩は、日本では主に海水から作られます。昔は海に近い新潟で作られ、阿賀川（阿賀野川）を上って会津に届き、会津からは塩作りに欠かせない薪（まき）が新潟に運ばれました。150年前に新潟港と一緒に開港した佐渡では、現在も昔ながらの塩作りが行われています。

両県の小学5・6年生が8月18・19日、佐渡を訪ね、塩をはじめとする海の恵みについて学びました。

「塩」も海の恵み。

佐渡へ向かった福島・新潟の小学5・6年生40人は、七浦海岸の夫婦岩の塩工房へ。塩は、日本では主に海水を集めて干したり沸かしたりして水分を蒸発させて作られてきました。子どもたちは塩作りの工程を学ぶとともに、バケツで海水をくみ上げる作業がとても大変なことや、海水を沸かして水分を蒸発させるためにたくさんの薪が必要なことを知りました。

海は楽しみいっぱい、生き物もいっぱい、でも危険もいっぱい。

塩作りを学んだ後、海水浴場ではライフジャケットの着用法、溺れたときにどう対処するかを教わりました。「ライフジャケットが脱げないようしっかり締めるのを忘れないこと」「溺れたときは助けを呼ぼうとして手を上げると体が真っすぐになって沈んでしまうからやってはダメ」「落ち着いて空を探し、その方向を向くこと」を教わりました。その後、グループに分かれてバナナボートとジェットスキーを体験。広い海原を時速70キロのスピードで進むと大きな歓声が上がりました。

みんな一緒に海水から塩を作る作業を体験

体験2日目には海の生き物について学ぶため、釣りやカニ捕りも体験。

海は危険なところもあるけれど、楽しく遊べたり、私たちにたくさんの恵みを与えてくれていることに気付くことができました。

多くの人に伝えたい、貴重な体験。

2日間さまざまな体験をした子どもたちは、「川と海と暮らしの関わりが分かったので、これから川を大事にしたい」、「もっとたくさんのことを学んでお隣同士仲良くなりたい」など、それぞれの感想を語り、川と海がつないでくれた縁を大切にしていこうと誓いました。

【鉄】コース　2018 8/25

昔、港と阿賀川（阿賀野川）を通じて運ばれた、農作業に欠かせない鍬（くわ）や鎌。新潟港から入ってきた鉄が信濃川を通じて三条で金物になり、阿賀川（阿賀野川）で会津に届きました。

両県の小学3年生以上の親子40人が8月25日、新潟市と三条市を訪ね、鍛冶体験などを通じて川と港が果たしてきた役割や、これからの福島・新潟の関係づくりについて考えました。

鉄をたたいて「道具」に変える。

江戸時代後半から農機具や包丁、はさみなど金物の町として知られるようになった三条市。鍛冶道場では、くぎを熱してたたき、ペーパーナイフを作りました。炎が上がるコークスの炉に五寸くぎを入れて数十秒、くぎが赤くなったらハンマーで何度もたたいてナイフの形にしていきます。ハンマーが重くて上手に打ち付けられず、教えてもらった職人さんたちから「もっと強くたたいて！」とあちこちで声が上がりました。

五寸釘（くぎ）からペーパーナイフを作る体験

子どもたちは「くぎからナイフが作れる」こと、そして「簡単そうに見えて自分で作ると難しい」ことなどに驚いていました。

金物はたたいて直して、生涯使える。

土を耕す道具「鍬」を現在も4,000種以上製造している相田合同工場では、工場見学と鍛冶について話を聞きました。鍬は土の質や作業内容に合わせてさまざまな形があります。長く使って欠けたり、割れたりしても、熱して鉄を付け足して修理ができるだけでなく、体格や年齢に合わせて使いやすいように形を少し変えて生涯使うことができる道具だそうです。

新潟に港があったから原料を運ぶことができ、川があったから必要なモノを運ぶことができたこと、そして運ばれたモノは修理しながら大切に使われたことを知りました。

川の流れから文化の発展が始まったことを改めて知り、新潟県とのつながりが大変深いことに驚きました。親子で地域の歴史を知り、技術を体験できて良かったです。（会津美里町：女性）

みんなと一緒に海水から塩を作る体験をしました。海水は、私たちの食べ物に使われています。だから海は、きれいであってほしいと思います。（郡山市立富田東小5年）

五寸くぎがだんだんとペーパーナイフの形に変わって、職人さんがヤスリで形を整えると一気に本物のナイフになっていくのがすごいと思いました。（新潟市北区：男性）

新潟市歴史博物館「みなとびあ」で福島と新潟のつながりや、江戸時代の舟運を学ぶ参加者。

川や海の清掃ボランティアに参加してみたいです。これからは阿賀川・阿賀野川、日本海にもっと目を向けて生活し、きれいに守っていきたいです。（喜多方市立第一小6年）

日本財団 海と日本 PROJECT

150 新潟開港 Niigata port

日本財団「海と日本プロジェクト」は、日本人の暮らしを支えてくれている海を学び、体験し、未来へ引き継ぐアクションの輪を広げるための取り組み。今年8月、新潟県で行われた「川もり海もりプロジェクト」を紹介します。皆さんもぜひ、海について学び、海へ出かけ、海を好きになってください。

海のこと、川のこと、もっと詳しく調べてみよう

日本海
川もり海もりプロジェクト
HPはこちらから